

2014年度(平成26年度) 公益財団法人宮城厚生協会

事業計画

第22回理事会(2014年2月8日) 決議



長町病院新棟全景
および施設内



厚生協会だより

2014年3月28日
第 324 号

発行
公益財団法人
宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人: 長 澤 清 光

はじめに

公益財団法人として2年目となる本年度は、公益性とこれに伴う社会的責任を自覚し、医療、介護の質の向上に取り組み、法人に課せられた役割を果たす。特に、日本国憲法が定める平和・人権・民主主義の原則と、国民の生存権と健康で文化的生活の実現のために努力する。

I. 厚生協会の事業、経営をめぐる環境認識

◇政府が進める「社会保障と税の一体改革」は、消費税を引き上げ、その財源を活用して医療・介護サービスの機能強化と同時に、重点化・効率化に取り組み、2025年に向けて、医療提供体制の再構築、地域包括ケアシステムの構築を図るとしている。これらのことから、今日の医療を取り巻く環境が大きく激変する。

◇2014年度に引き上げられる消費税は、地域住民の方々も大きな影響を受けるこ

となる。2014年度の診療報酬は実質マイナス改定であり、医療機関にとっても極めて深刻な影響を及ぼすことになる。T P P (環太平洋経済連携協定)への参加は、地域経済全体に計り知れない被害を及ぼす可能性があり、医療・介護分野においても、混合診療の拡大、株式会社への参入など、自由診療の拡大で国民皆保険制度や社会保障が大きく後退しかねないものである。

◇東日本大震災から3年が経過した現在も、未だ心の傷を抱え、生活再建の道筋が得られず、復興への道はまだ遠く途上にある。被災者の医療費免除の終了による受診抑制もみられ、仮設住宅の住民をはじめ、被災者たちは未だに拭えない不安を抱えながら暮らしている。

◇憲法25条(生存権)を空洞化させる生活保護法と生活困窮者自立支援法の改定により、国民の命と健康、生活を支える土台である社会保障制度の根幹が揺るぎだしている。「特定秘密保護法」の公布は、行政機関から通院歴等



理事会風景

の照会を受けた場合、守秘義務を理由に回答を拒むことが出来なくなり、患者は主治医を信頼して話せなくなる重大な問題を含んでいる。

Ⅱ. 宮城厚生協会2014年度の事業計画

今年度は、公益認定法人として、公益的事業の推進と経営の透明性、健全性を明示し、民医連経営としての社会的役割の発揮に全力を尽くす。

引き続き震災復興に向けた運動に取り組み、「社会保障

と税の一体改革」「2025年のあるべき医療・介護の姿」を念頭に置き、医療・介護等の社会保障をめぐる環境の変化を機敏に捉え、変化に対応できる事業戦略と経営基盤づくりに向け「中長期的事業・経営戦略」を策定する。

1. 患者の立場にたつ診療事業、無料低額診療事業を行う

◇坂総合病院は地域医療支援病院として、救急・紹介患者の受け入れ強化を行う。

◇「救急医療・地域連携・教育ステーション」建設等の事業を行う。

◇新築した長町病院を軌道に乗せる。

◇地域での医療・介護の連携を強化し、高齢者の在宅サポートを行う。

◇老朽化した診療所の移転や経営対策を重視する。

◇第二種社会福祉事業として無料・低額診療事業を拡大する。

◇「医療相談」「生活相談」「介護相談」を積極的に取り組む。

2. 保健予防・集団的健康管理事業を行う

◇健診事業の充実、専門性を生かした特定健診・保健予防活動を重視する。疾病予防事業としての運動療法に取り組む。

◇振動病・頸肩腕障害・職業性腰痛、被曝者健診及び被曝二世健診、アスベストによる健康障害やじん肺に関する健康相談等、労働者・住民の健康問題に取り組む。

3. 医療従事者の研修教育、医学・看護学等の研究事業を行う

◇東北大学病院及び東北大学大学院医学系研究科の「コンダクター型総合診療医」養成事業とも連携し、「みちのく総合診療医学センター」を中心とした地域医療を担う医師の育成をさらに充実させる。

◇新専門医制度に向けた後期研修を充実させる。

◇専門研修のため国内外大学・研究機関への研修派遣を行い、地域医療に貢献する。

◇地域開放型研修会の開催、薬学生病院実務実習、リハビリ関連や看護関連職種等の実習受け入れを行う。

4. 高齢者や要介護者における事業を行う

◇訪問看護ステーションの役割を高め、看取りなどに対応できる事業規模に整える。

◇新たな高齢者人居施設（有料老人ホーム）を開設し、サービス付高齢者賃貸住宅、小規模多機能施設等の住まいづくりを具体化する。

◇24時間定期巡回・随時対応サービスなどの在宅サービスやリハビリテーションなど自立支援型サービスの強化に向け計画的な人材育成を行う。

◇在宅医療体制を整備し、医療と介護における地域連携を進める。

5. 地域住民との協力による健康増進事業を行う

◇地域住民と協力して「健康相談会」「離島健診」「仮設住宅健康相談会」「路上生活者

等の健康を守る健診・食事会」等の健康増進活動に取り組む。

◇県内に避難している福島第一原発被曝者、被災住民の健診や相談会、双葉町からの避難者や県南地域での甲状腺工二一検診等に取り組む。

6. 総合的な社会保障制度確立に関する事業を行う

◇地域住民の健康権を守るため、社会福祉士による医療生活相談援助に取り組む。戦争政策に反対する民医連綱領の立場から憲法9条、平和を守る取り組みを進める。

◇医療・介護の現場から生活再建と地域の復興をはじめ、憲法が真に生かされる社会を築くために運動に取り組む。



新病院(長町病院南棟)完成

多くの方々に支えられ
新たな一歩をスタート!

長町病院事務長 大山 泰人

3月22日(土)待ちにまいった長町病院新棟(南棟)が完成し救急及び入院診療を開始、3月24日(月)には外来診療が開始しました。震災から3年、困難を乗り越え、多くの方々に支えられ新たな一歩を踏み出すことができました。

長町病院新棟(南棟)は、「患



たくさんの方が引越し応援に駆けつけてくれました

者が元気になる自然の光や風を感じる設計」をコンセプトに広い空間と十分な光を取り入れ、健康的で明るい印象を受ける待合室・診察室・病棟となりました。シンプルな患者導線と、安全性と視認性の高い職場配置等を考慮しました。また広い病棟デイルームや病棟内機能訓練室や回廊式廊下など長町病院の機能にあった構造も特徴的となっています。

15日に行われた内覧会・祝賀会には地域・共同組織、連携医療機関等から130名を超える参加がありました。あいさつで水尻院長から新棟

(南棟)と既存棟(北棟)改修後(介護事業拡大と有料老人ホーム事業展開)の長町病院グループにおける医療と介護事業展開の方向が示され、参加者からは「今後ますますの地域連携が進みますね」「地域包括ケアへの足掛かりができましたね」など多くの期待が述べられました。

21日・23日で行われた引越し作業には、延べ400名を超える職員・関係者が県連内から応援に駆け付けてくれました。また「私たちも何か力になりたい」と宮城民医連・退職者の有志が引越し二日目には200食分の炊き出しを行い、参加者を激励しました。作業に汗だくとなり、くたくたになりながらもアットホームで笑顔があふれるひと時を演出してくれました。

24日の外来診療は、明るく広くなった外来フロアに「嬉しい戸惑い」を感じながらも、ゆったりとした雰囲気の中で大きな混乱もなくスタートしました。これまで機器移設等で検査制限があった検査室・放射線室には一気に予約が集中し「嬉しい悲鳴」状態ですが、

今後運用を工夫改善する課題も見えてきました。これまで支えて下さった多くの方々への感謝の気持ちを

忘れず、地域や連携医療機関との信頼をより強いものにするよう長町病院職員一同がんばる所存です。

公益財団法人宮城厚生協会全職責者会議 開催

医療・介護制度の全体像と
中小病院に求められる
地域包括ケアへの具体化

日時 2014年2月1日(土)
会場 仙台市戦災復興記念館・記念ホール

副専務理事 平賀 秀法

政府は医療制度改革推進プログラム法を決定し、次期医療計画の策定期限を2018年度(診療報酬・介護報酬同時改定)とし、必要な措置を2017年度まで順次講じるとしています。

開催目的…全職責者が医療改革の方向性を理解し認識を一致させ事業を進める

この対応は2012年の診



報告する山田智全日本民医連副会長

療報酬改定から進められており、2014年の診療報酬改定も実質マイナス改定と更に加速されることとなります。こういった状況のもと全ての職責者が改革の方向性を理解し、一致した認識のもとで事業を進める事を目的に法人全職責者会議が開催されました。各事業所から全体で203名(坂関連53名、長町・歯科37名、泉30名、古川・歯科30名、介護関連17名、本部・診療所群36名)の職責者が集まり、法人職責者集団と



熱心に聴講する参加者のみなさん

して一堂に会し会議に臨みました。

○学習講演

テーマ

「医療・介護制度の全体像と中小病院に求められる地域包括ケアへの具体化」

全日本民医連副会長の山田智先生にお越しいただき、標記テーマで、2025年のあるべき医療・介護の姿、地域完結型医療に変えられる中の中小病院の「地域包括ケア」への具体化と取り組むべき課題についてお話をいただきました。

◇内藤孝先生からの報告

「医療・介護の

激変期の課題」

講演に続き、常務理事の内藤孝先生から「医療・介護の激変期の課題」というテーマで法人が抱える課題として、病床機能区分に対応した病院機能の見直しを急ぐ課題、診

療所の求められる役割に対応する課題、県連各法人の共同事業として準備する民医連総合ケアセンター(仮称)建設や配食サービスの事業化、定期巡回・24時間随時対応型訪問介護、小規模多機能型居宅介護と訪問看護との複合型サービスやサービス付高齢者向け住宅への取り組みなど、それぞれについて提起されました。

また、佐藤孝一坂病院事務局長からは「坂病院の戦略と課題」、長町病院の水尻強志院長から「長町病院新病院設計計画の現状と2014年度方針」、最後に横山公樹副専務理事から「経営の現状と課題」として問題提起が行われ、2014年度事業に向け認識を高める集会となりました。



これまでの「支援本」に

ありがとうございました

—いつの日かこの地域での医療活動再開をと

願いつつ振り返る—

◇福田町クリニック◇

福田町クリニック師長 尼ヶ崎 多美子

1999年11月1日開設、
これまでの歩みあれこれ

当クリニックは2014年2月末で、初代彦坂直道所長、2代目村口至所長に続いた3代目神久和所長の合計14年余で幕を下ろしました。

別れる患者の皆さん、「宮城野の里」入居者や利用者の方々、宮城野健康福祉友の会・みやぎ高齢者福祉の里をつくる会・地域の皆様ご支援本当にありがとうございました。

これまで一緒に働いてきたクリニック職員、折りにふれて協力しながら歩んできた福田町訪問看護ステーション・宮城野の里職員の皆様

に心より感謝申し上げます。
福田町クリニックは、仙台市宮城野区田子の地域に1999年11月1日に開設しました。

彦坂直道所長・伊藤・尼ヶ崎保健師・小林看護師、事務半日パート職員で週3日の診療をやり、同時に宮城民医連初の高齢者福祉施設「宮城野の里」発足準備室の3人と共に日によつては、日付が変わるまで準備に取り組んだ事もありました。

2001年3月には、訪問中心の歯科が杉目歯科所長・菅原歯科衛生士の2人体制で併設され、内科と協力連携し取り組みました。歯科所長は、



クリニック朝会2007年12月

宮井先生、成田先生と引き継がれ、在宅診療の充実を図りました。

2000年3月26日に開所の「宮城野の里」への医療サポーターや午前内科外来診療(院内処方)・午後在宅訪問診療、種々の健康診断をはじめとする予防事業、「つくる会」「健康福祉友の会」活動・学習研究発表に取り組み、更には介護保険居宅介護支援事業等、県連の第三次長計「医療と福祉の連携をすすめ、住み慣れた所でだれもが安心して

暮らせる街づくり」をめざしその役割を担ってきました。

クリニック開設当初は、訪問や往診用の自動車購入が2003年までできず、職員の個人車や訪問看護ステーション車をお借りしての診療でした。X線撮影装置もなく半年近くは患者さんと近医の先生にご協力をお願いし撮影して頂きました。大変だったのは、時間外や夜中の緊急往診に一人所長での対応だったのではないのでしょうか。さらに2011年3月の東日本大震災のときは、この事業所も大変でしたが、当クリニックも神所長と厄ヶ崎と宮城野の里に泊まり込み支援にあたりました。外来診療は、震災後11日目に再開できました。

当クリニックがある田子地域は、震災復興住宅の建設が進んでおり、7月には入居開始となり、ここ数年で人口が2千人増える予定と聞いております。今後「宮城野の里」と昨年新設された特別養護老人ホーム「田子のまち」は、この地域での福祉の拠点として期待されており、又地域医

療活動の対象としても大事な所となるでしょう。

いつの日にか医師体制を整えて、民医連の旗を掲げての

◆福田町訪問看護ステーション◆

福田町訪問看護ステーション所長 渡辺 恭子

今後も「自分の家で過ごすために必要な支援」で
きるようにしていきたい

福田町訪問看護ステーションは、2月28日をもって、約14年の歴史に幕をおろしました。私個人はステーションに異動して8年ほど、3代目所長になってからはちょうど2年と、歴史の一部分に関わらせていただいた程度ですが、さまざま体験をさせていただきました。

なかでも大きな出来事となるのか、やはり東日本大震災かもしれません。利用者様を含め、人的な被害は幸いありませんでしたが、一段落したときに津波で流された利用者様宅の跡地にふと足を運び、

医療活動がこの地域で再開されることを心から願っています。

玄関先のタイルなど断片的に残された面影をみた時に、改めて津波の威力と、日常が日常でなくなることの悲しさを実感したのを覚えています。

利用者様とご家族も様々で、小児の笑顔に癒されたり、100歳を超えてなお出来ることは自分で行いたい、という姿勢に学ばされたりしました。当たり前のことながら同じ形が一つもない、というのは、在宅ならではの醍醐味なのだと思います。

福田町近辺は現在田園も広がるのかな地域ですが、復興住宅の他にも建設ラッシュが進みつつあり、1年もたてば景色もずいぶん変わっていくことでしょう。今後はス



ステーションスタッフ2010年12月

タッフ全員が塩釜・多賀城へと地を移し、また新たな出会いをしていくことになりました。在宅療養をめぐる環境も変化が求められており、介護と看護が両輪となって利用者様を支える体制など、超高齢化の流れに向けた対応が必要になっていきます。自分の家で過ごすために必要な支援を行えるよう、これからも学んでいきたいと思っています。これまで関わっていただいたすべての皆様、本当にありがとうございました。



こんな読み方も いいなあと 感じる今日この頃

さわやか **エッセイ**

坂総合クリニック運動療法センター 健康運動指導士 **我満 琴絵**
(メディカルフィットネスのびのび)

はじめに

趣味とは言い難い程度ではありますが、私は、人並みに本を読むことが好きです。ジャンルは様々で、「特にこれっ!」というものはなく、そのときそのときの気分が選ぶ本をおおいに左右します。自分を客観視でき、なかなかおもしろいです。いつぞやはフラフラと図書館に足を運び、詩集を手にしてた自分に「気持ちが落ちていたんだな…」とハッとしたことがありました。

そんな風に、わくわくしたい時も泣きたい時も、もやもやした時も本に大概助けられている私なのでした。



ことの始まりは

先日、当施設の会員さんとNHKについて話をしていました。最近のNHKの番組を「アーデモナイ、コーデモナイ」と、言い合うよくある雑談です。そんな中、「NHKでもう一度見たい番組ってなんだろう?」という話題になり、各々記憶を振り返っていました。過去の大河ドラマや朝ドラマ等の名だたる名作が出されるなか、私が思い浮かんだのは人形劇の「新八犬伝」でした。



思い出

記憶に残っている方も多いかと思います。「新八犬伝」とは、原作が曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」という有名な物語に加え、黒子姿で語りを担当したのが坂本九さんという、なんとも豪華な番組です。私は当時、幼稚園児だったと思います(定かではありません)。おじいちゃんの胡坐の上が私の特等席で、大相撲中継の後、人形劇を見るのが大好きでした。わからない言葉ばかりとびかって、意味のわからないまま見ている状態でしたが、おじいちゃんに内容を教えてもらいながら、九ちゃんの「本日、これまで!」の口上を聞くまでの15分間が好きでした。そんな幸せな思い出がふとした会話から甦ったのでした。



そして今、その日をきっかけに、なんとなく原作の「南総里見八犬伝」を読んでいます。あの頃の記憶を振り返り、懐かしさを感じながら読んでいます。たまには、こんな本の読み方もいいなあと感じる今日この頃です。

※ちなみに…

NHKの人形劇情報です。四年前、三谷幸喜脚本で「新・三銃士」が放送されました。昔とは違い、人形がイケメン仕様になっており、見入った記憶があります。そして、今年も三谷幸喜脚本で「シャーロック・ホームズ」が放送予定のようです。興味のある方ぜひチェックしてみてくださいね。